

ロンドンブックフェア散歩

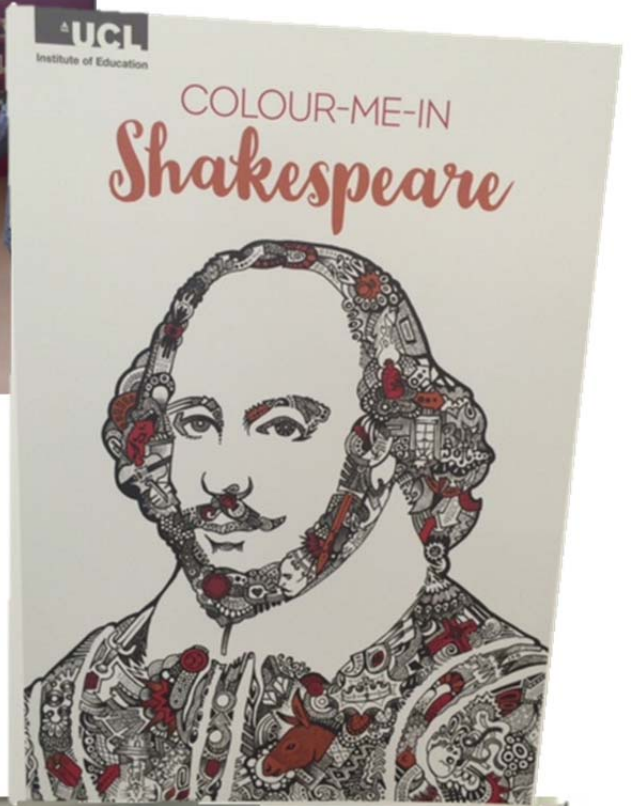
先月、ロンドンブックフェア (LBF) に参加してきました。筆者にとって初参加だった 2014 年以來、2 年ぶり 2 回目の LBF になります。LBF は昨年、会場を Earls Court から Olympia へと移したため、Olympia は初。昨年参加した同僚から、会場の構造に慣れず道に迷った話を聞いており、気を引き締めていましたが、フェアの最終日まで会場を彷徨う自分がいました (汗)。

今年のトレンドについてはレポート「**ロンドンブックフェア2016**」をご覧くださいだけだと思いますが、輸入の方でしばらくご無沙汰していた海外出版社と新たな関係も構築でき、今回も多数の収穫がありました。ポテンシャルのびんびん感じられる作品をたくさんリクエストしてきましたので、皆様にご紹介するのが楽しみです！

本コラムでは、ブックフェアと、フェア前後の日に回った書店について、主に写真でご紹介したいと思います。



↑会場で目立っていたのはやはりシェイクスピア。今年は没後400年の節目の年で、イギリス各地で記念イベントが目白押しようです。もちろんLBFでも関連イベントが多数開催されていました。





←『The Gap of Time』（シェイクスピアの『冬物語』を現代を舞台に改変した作品）を朗読するジャネット ウィンターソンに遭遇！

→サイン会は長蛇の列でした。次のミーティングが差し迫っていて叶いませんでしたが、サイン欲しかった！





↑ Translationという言葉には反応してしまいます。昨年に引き続き、今年もLiterary Translation (文芸翻訳) のセミナー／イベントが多数開催されました。現在英語圏では翻訳書の割合が増えています。各セミナー／イベントは立ち見客が出るほどの大盛況で、勢いを感じました。



The Literary Translation Centre

Sponsor: amazon crossing

Funded by: Arts Council England and The Foyle Foundation

Tuesday 12 April

- 10:00 - 11:00 Non-native Translation: Is It Time to Rethink Where Good Translations Come From?
- 11:30 - 12:30 Translating from the Margins: The Challenges, Opportunities and Responsibilities of Working with 'Under-Represented' Languages
- 13:00 - 14:00 An Overview of Emirati Literature Today
- 14:30 - 15:30 Tackling the Classics: Privilege or Poisoned Chalice?
- 16:00 - 17:00 New in Translation: Reading, Discussion and Book Signing
- 17:30 - 18:30 Networking Drinks: Funded by Writers' Centre Norwich

Wednesday 13 April

- 09:15 - 09:45 Hay Festival Announcement Event
- 10:00 - 11:00 Translator as Activism: from Politics to Cultural Change, How Translators are Changing the World through their work
- 11:30 - 12:30 World Literature
- 13:00 - 14:00 Getting Started in Translation Q & A
- 14:15 - 15:15 Translation as Creative Writing: How to Support a Strong Ecology of Emerging Translators here and Around the World
- 15:30 - 16:30 Discovering Stories in Turkey, Asia and Africa
- 17:30 - 18:00 Translation as Research

Thursday 14 April

- 10:00 - 11:00 Going Global: How the Postcolonial World is Challenging the Metropolitan Centres of Publishing
- 11:30 - 12:30 What Works in Translated Children's Literature
- 13:00 - 14:00 Setting the Stage for International Writers
- 14:00 - 15:00 New Videos From Europe



←ヤマハミュージックメディアさんに翻訳をご依頼いただきました『自分の音で奏でよう!』の日本語版ポスターが、原書版元Mosaic Pressのブースに！

↓本を手にするのが難しい地域の子どもに本を届けるThe Book Busプロジェクト。イラストはロアルド・ダールの作品でおなじみのクエンティン・ブレイク！



今回はフェアの前後に時間があつたので、ロンドン市内の書店もチェックしてきました。大型書店のベストセラーは共通していましたが、見せ方はそれぞれに趣向を凝らしていて興味深かったです。また、最近日本の書店ではすっかり浸透した感がありますが、雑貨があつたり購入前の本が読める椅子があつたりカフェがあつたりと、客を惹きつけ長く留まらせるためのしかけもたくさんあり、どの書店でも思う存分に浸れる心地よい空気を感じました。椅子がないフロアで、購入前の本を複数冊床の上に置いて(!)、床に直に坐って読む人もチラホラ。まるで自分の家みたいにリラックスして読みふけている姿や、それを気に留める様子もない他の客や店の人には、さすがに軽くカルチャーショックを受けました(笑)。大型のぬり絵本や迷路本、地図の本などは、子ども向けから大人向けまでたくさんの種類が目に入りました。他にはやはり、シェイクスピアやスターウォーズ、デヴィッド・ボウイ関連本の存在感が強かったです。



←まず向かったのはPiccadilly Circusにある老舗のHatchards。1797年創業だそうです。

→Hatchardsのショーウィンドウにディスプレイされていた『SPQR』は、ケンブリッジ大学の古典学の教授、Mary Beard氏による古代ローマの本で、イギリスではベストセラーになっています。





←次に向かったのは、言わずと知れたイギリス最大の書店チェーンWaterstonesのPiccadilly Circus店。ヨーロッパで1、2を争う売り場面積だそうです。

↓そしてここにも『SPQR』が。古代ローマ風の柱か。それにしても凝ってるなあ。



←イベントで訪れた著名人の中に村上春樹氏発見！



←お次はWaterstonesのTrafalgar Square店。すぐ目の前が大英博物館、トラファルガー広場というすごい立地。

↓写真遠くて恐縮ですが、SOHOには個性的な古書店がたくさん。イギリスの神保町や！（笑）





←本と音楽好きが集う1903年創業の老舗Foyles。フィクション分野では川上弘美氏の『先生の鞆』の英訳本『Strange Weather in Tokyo』が堂々の3位でした！



←ショーウィンドウに横山秀夫氏の『64』の英訳本『Six Four』が！



←音楽CDやDVD、楽譜も充実していました。写真の特大キャビネットには楽譜が入っています。

→遊び心を感じる書籍のディスプレイ。



←医学書のコーナーにはなぜか白衣が……。聴診器なども売っていました（笑）。

→末尾を飾るにふさわしい、『世界で最も美しい書店』
でも紹介されたDaunt Books。



↑天窓がある店内。当日は小雨日和でしたが、雨音が静謐な雰囲気醸し出していました。



←児童書のフロアの天窗には、壁面になんとも心憎い演出が。

↓おまけのThe Kew Bookshop。

世界遺産に指定される王立植物園のキューガーデンまで足を延ばしたところ、駅前にごぢんまりとした素敵な本屋さん！





←店員さんに売れ筋を聞いたところ、やはりぬり絵本や迷路本などのアクティビティブックが人気だそう（ちなみにハリー・ポッターのぬり絵本は出るタイミングが少し遅かったとのこと）。文芸翻訳書も存在感を増しており、「日本のものも表に飾ってあるわよ」とのことので回ってみたら、ここにも『Six Four』が！

以上、もちろんブックフェアのためにロンドンまで行ったわけですが、それにしても本・本・本づくしの1週間でした。

小澤大介

Copyright(c) 2016 TranNet KK all rights reserved



株式会社トランネット
〒106-0046 東京都港区元麻布 3-1-35
VORT 元麻布 4 階
<http://www.tranet.co.jp>